

管十四
同
十四郡
同
同
同
同
同
同

安那郡

〔續日本紀元八〕養老三年十二月戊戌停備後國安那郡茨城葦田郡常城、

〔古事記孝昭〕兄天押帶日子命者中略阿那臣阿那臣

〔古事記傳二十一〕阿那臣阿那那書紀景行卷十三に穴海安閑卷に六婀娜國などある地にして、

和名抄備後國安那郡夜須これなり夜須奈とは安那と云事を嫌ひて後に唱か

深津郡

〔續日本紀元八〕養老五年四月丙申分備後國安那郡置深津郡、

〔日本靈異記下〕鬻體目穴笋揭脫以祈之示靈表縁第廿七

白壁天皇世寶龜九年戊午冬十二月下旬備後國葦田郡大山里人品知牧人爲買正月物向同國深

津郡於深津市而往略

神石郡

〔日本書紀天武十九〕二年三月壬寅備後國司獲白雉於龜石郡而貢乃當郡課役悉免、

〔日本後紀桓武十三〕延曆二十四年十二月壬寅備後國神石奴可三上惠蘇甲努世羅三谿三次等八郡調

糸相換鐵、

〔三代實錄清和十一〕貞觀七年八月十七日乙丑備後國神石奴可甲努惠蘇世良三谿三次三上八郡居山

間土宜採鐵連年早疾黎庶弊亡四年之間每年四郡更復課役、

〔藝藩通志百十七〕備後國奴可郡疆域形勢風氣附

奴可郡は國の北にありて藩府廣島を去ること二十四里郡名文字倭名抄拾芥抄等皆奴可なり、

中古或は怒哥奴哥に作る皆假字にて原は額なるべし郡内に奴可村額部といふ地あり廣五里

東は小串村より西は栗村大戸に至る衰四里南は末渡村より北は小島原村に至る四隣東は備

中國哲多郡南は同川上郡備後神石甲奴二郡西は三上惠蘇二郡北は出雲國仁多郡伯耆國日野